

自主・創造・根気

第18号

2018. 11. 16

三田市立狭間中学校

人間らしく生きる

*10月19日の全校集会から

「一花開いて天下春なり」という禅語があります。「梅の花が一輪咲けば、その馥郁たる香りに、あたり一面が春一色になったように感じられる」というような意味です。

西田幾太郎博士（哲学者）は「竹は竹、松は松と、各自その天賦を十分に発揮するように、人間が人間の天性自然を發揮するのが、人間の善である（著書：善の研究）」と、述べています。

わかりやすく言えば「人間が人間らしく生きる」ということでしょうか。梅が梅らしく香るように、竹は竹らしく真っ直ぐに伸び、松は松らしくいつも瑞々しい緑の葉を茂らせています。このように自然には、それぞれの自然らしさがあります。

では「人間らしさ」とは、いったいどのようなものでしょう。

駅でこんな出来事がありました。その駅のプラットホームは、場所によっては電車との間に大きな隙間ができていました。電車がホームに止まり、続々とお客さんが乗ってきます。その時、「あっ！」という大きな声がしました。女性が電車とホームの間に落ちかけていたのです。「すぐに助けなければ」と思ったときには、すでに周りの人が助け起こしていました。不注意なのかホームの構造が悪いのか、そんなこと考える間もなく周りの人たちは即座に手を差し伸べました。そこに「人間らしさ」があるように思います。

マイケル・トマセロ博士（心理学者）が興味深い実験をしています。

生後12ヶ月の子どもの前で、大人が紙をホチキスで止めます。そして、その人が部屋を出た後で、別の人が部屋に入り、紙とホチキスを棚に片づけます。そこへ最初の人紙の束を持って来て、ホチキスを探すそぶりをすると、幼児はホチキスのある場所を指すのです。

同じことをチンパンジーで実験すると、報酬を得られそうな時でなければ指さしをしません。チンパンジーは、知能の高さから人間に最も近い動物とされていますが、「他の仲間のために」という気持ちに決定的な違いがあるようです。

私たちは「困った人がいたら助けましょう」「思いやりをもって行動しましょう」と子どもの頃から教わりました。けれども、人助けも思いやりも教えられて為すのではなく、私たちが生まれ持った天性の力であるということです。

私たち一人一人は「生まれつきの優しさ」を持っています。それぞれの優しさが一輪一輪花開くとき、世の中は幸福という香りで満たされていくのでしょうか。

*花園「禅 おかげさま」(H29.3月号) から

「人はなぜ勉強するのか」

皆さんは、「何のために勉強するのだろうか」「学校で教わったことが、将来なんの役に立つのだろうか」などと考えたことはありませんか。

親や先生が言われる「子どもは勉強が仕事」「今は勉強の意味がわからなくても、将来きっと役に立つ」「進路の選択肢が増えるから」等々、どれも正しい答えだと思います。しかし、社会人になっても勉強はします。仕事に必要な勉強や好きなことを深める自主勉強など、様々な形で学習します。受験勉強一つとっても、ねばり強く向き合う力や努力し続ける姿勢が身に付いたという人もいます。私たちは、生涯を通して主体的に学び、成長していくよりよい人生を築くための基本姿勢を学校で身に付けているのかもしれませんが。

皆さん一人ひとりには、他の人にはない独特の“尊い持ち味”があります。尊いとは優れていることではなく、他の人との比較を超えた掛け替えのないものです。この掛け替えのない“尊い持ち味”を、100%発揮して自己実現の喜びを味わうことが、幸福な人生といえるでしょう。

この授かった“尊い持ち味”を見つけ出すのが勉強なのです。まずは、学校の各教科を全力で取り組んでみることです。そうすると、自分の得意分野や興味・関心のある分野がわかってきます。そして、その分野を鍛え、自分の持ち味をさらに高める努力をすることが勉強です。学校などの集団の中で持ち味を發揮しながら「公のために何ができるか」を追究していくのも大切な勉強です。

こうして生き甲斐のある人生をデザインすることが「立志」であり、それこそが「人はなぜ勉強するのか」という問いに対する基本的な答えではないでしょうか。

*参考文献 「人はなぜ勉強するのか―千秋の人 吉田松陰」 岩橋文吉：著